

循環器センターの紹介

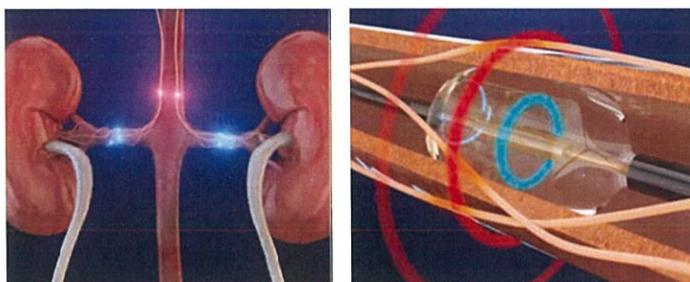
最近のトピックス

横浜労災病院 循環器センター 循環器内科 部長 ^{ゆもと} 柚本和彦

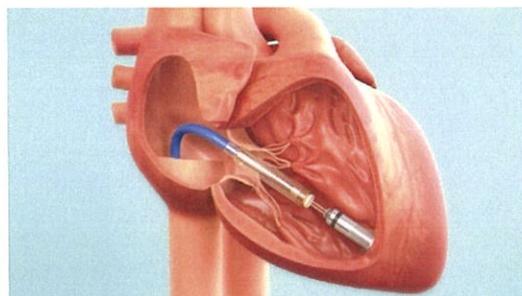
当院の循環器内科では**薬剤抵抗性高血圧**に対する**カテーテル治療**の治験を行っています。カテーテルを用いて腎動脈周囲の交感神経束を焼灼することで交感神経活動を抑制し降圧をもたらす手技です。複数の降圧薬を内服しているにもかかわらず、収縮期血圧 150mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg 以上の 20 才～75 才の患者さんを対象にしております。血圧コントロールに苦慮している患者さんがいらっしゃいましたらぜひご紹介ください。(※治験選択基準に合致しない場合は参加できない可能性があることをご了承ください。)



高血圧カテーテル治療のイメージ



心室内小型ペースメーカー



小和瀬副部長を中心に不整脈科では、ペースメーカー本体を直接心室内に留置する**リードレスペースメーカー**の植込みを開始しました。また超小型心拍モニターを皮下に留置することで、発作性の不整脈を**遠隔モニタリングシステム**で迅速に診断することが可能になりました。外来で簡便に留置することができ、原因不明の失神や動悸発作の原因診断が可能になりました。

心臓カテーテル室の**放射線診断装置が新規更新**され、アクティビティーが一層高まりました。これまでどおり、虚血性心疾患、不整脈疾患、心不全、心臓リハビリテーションなど総合病院の利点を生かして、包括的にすべての循環器病患者の診療、治療にあたってまいりますので、よろしくお願いたします。

地域医療に更に貢献するために、**近隣の先生方からの循環器内科への直通電話の体制を見直しました**。日勤帯は私が院内に在席している際は私に直接つながります。また夜間、休日は当直医につながります。循環器疾患が疑われる患者さんで、お急ぎの方がいらっしゃいましたら重症軽症にかかわらず、ぜひご連絡ください。当日中に責任をもって診療させていただきます。

循環器直通電話（医療機関専用）

070 - 6454 - 4131(直通電話)

従来の 070 - 6964 - 1614 も使用可能です

災害対策訓練実施

災害拠点病院としての役割を果たします

救急災害医療部 部長 中森知毅

当院は緑区と港北区の中で、ただ一つの**災害拠点病院**です。また、横浜市が首都直下地震などで大きな被害を被ったときなどに、傷病者を被災地外に搬出する市内3つの搬送拠点(SCU: Staging Care Unit)の一つとして、指定を受けています。さらに、今後開催されるオリンピックやパラリンピックの協力病院として指定されており、来年度にはラグビーの決勝戦も隣の日産スタジアムで開催されるという状況下であり、当院はこれまで以上に災害対応が求められる立ち位置にあります。

これまで、当院では自然災害を想定して訓練を行ってきましたが、昨年度からは“**Mass Gathering**”という多数の人が集まる場所で生じる災害に対応するための訓練を始めています。

毎年のように訓練を行ってきたおかげで、災害初動に不安はなくなりましたが、パリやボストンでのテロ事件からの教訓として、今後日本でも取り入れられる、「いち早い傷病者の市内9カ所の救命救急センタ



ーへの分散搬送」に対応するには、もう一度院内の災害体制について検討が必要であるということがわかってきました。

被災すると、「訓練通りには行動できなかった。」という声が聞かれる一方で、「訓練していなかったことは、災害時にもできなかった。」とも言われています。いざという時に災害拠点病院としての役割を果たせるよう、今後も訓練を続けてまいります。

治療と就労の両立支援相談窓口開設について

働き方改革でも取り上げられている「治療と就労の両立支援」ですが、「病気を抱えながらも働く意欲のある労働者が仕事を理由として治療機会を逃すことなく、また、治療の必要性を理由として職業生活の継続を妨げられることなく、適切な治療を受けながら生き生きと働き続けられる社会を目指す取り組み」です。

これまでも当院では患者サポートセンター（がん相談支援センター）にてがんの治療と就労の両立支援相談を行ってまいりましたが、2018年4月からは「**神奈川産業保健総合支援センター**」と連携して、**疾患を問わず両立支援コーディネーター（医療ソーシャルワーカー）**が各種相談を行います。

【両立支援相談窓口】

横浜労災病院 患者サポートセンター（平日8:15~17:00） TEL 045-474-8111（代）

【連携先】

神奈川産業保健総合支援センター TEL 045-410-1160